

～ ヴァナッカム ～  
**வணக்கம்**

スリランカ通信 No. 13 平成 29 年度青年海外協力隊 和田さとみ 環境教育

**வணக்கம்** (タミル語: ヴァナッカム=こんにちは) 和田さとみです。スリランカの任期も残り1か月を切りました。ここでの日々は私の人生の中で、何ものにも代えがたい大きな宝となっています。残りの任期、一日一日を大切に過ごしていきたいと考えています。

年始は、パッティカリア地区の教育委員会の校長会議に出席し、これまでの学校環境プログラムの報告と、第三回目の環境プログラムの紹介、そして私にとっては最後の環境教育活動となる、ゴミ収集車アートプロジェクトの提案をしました。限られた時間の中でも、まだまだ新しい出会いが訪れます。私自身は、自分ができることを最後までやり遂げたいと思っています。



Satori Wada  
சதோமி வடா

**岐阜県立恵那高等学校との連携：アートマイル壁画プロジェクト**



「アートマイル壁画プロジェクト」とは、文部科学省・外務省後援、JICA の協力のもと、海外パートナー校とインターネットを使って「平和」や「環境」など世界共通のテーマについて学び合い、世界に訴えるメッセージを込めて、一枚の壁画を半分ずつ描いて共創する国際協働学習です。

昨年4月パッティカリア教育委員会の推薦を得て、昨年9月から巡回校の一つであるヴィンセント女子校と岐阜県立恵那高等学校がお互いの自己紹介や文化紹介、世界の問題やテーマ決めなどスカイプやメールで英語による交流を継続的に行い、国際協働学習を進めてきました。

壁画のテーマは国連の開発目標 SDGs (持続可能な開発目標) から 14 番目のゴールである「海の豊かさを守ろう」を選び、壁画タイトルは“Borderless Ocean (国境なき海)”としました。

↑ Vincent Girls' High School の生徒や先生方と共に  
生徒の英語力と臨機応変さには、毎度感心させられます。

岐阜の自然豊かな川からその先につながる海は、スリランカにも続いており、私たちの海を皆で  
守ろうという意味が壁画に込められています。2月21日に市役所で修了式を行いました。



↑ 恵那高の生徒とのスカイプ対話



↑ 恵那高の生徒へメッセージを送信



↑ 市役所の修了式 出来上がった共同壁画と共に

**最後の環境教育プログラム ～行動を起こそう～**

JICA ボランティアとして、最後の学校巡回となる第三回目のプログラムは、3R (Reduce : 再生抑制、Reuse : 再利用、Recycle : 再生利用、再資源化) について学び、実際に環境問題に対して自分から行動を起こすことができる、ということを目標に計画しました。ここの児童生徒たちは、プラスチックや自分たちのゴミがどのような環境問題や健康被害につながっていくかについて頭でよく理解しています。しかし実際に行動に移すことまでにはなかなか至りません。人を変えることはできませんが、自分が考えていることを行動につなげる、という過程を実際に体験してもらい、今後の自分たちの行動を考えるきっかけになればと考えました。校内のゴミを拾うと、菓子の包み紙やペットボトル、授業で使ったと思われる紙のゴミ、中には靴やサンダルまでもが捨てられていました。児童生徒と一緒に校内のゴミを拾いながら、環境について最後のメッセージを伝えていきます。



↑ 校内にあった菓子の包み紙やペットボトル



↑ 校内のゴミを皆で拾って観察

## 障がい児者支援の協力隊同期と共同企画：ポイ捨てはいいこと？悪いこと？

2月初旬に「障がい児者支援」という職種で、スリランカ内陸部の「ブッタラ」という場所で活動している真鍋隊員から環境教育プログラムの要請がありました。真鍋隊員の配属先は、スリランカの子どもの学びの環境向上を目的に、地域の保育士さんとともに支援活動をしている NGO「スランガニ」。こちらが運営する障がいのある子どもたちを受け入れる通所センター「リトル・トゥリー・子どもセンター」で彼女は支援活動をしています。今回の要請は、私にとって新しいことへの挑戦でもありました。それは、障がいをもった子どもたちにワークをするのは初めてだったこと、また、シンハラ語での初めてのワークだったからです。私の任地はタミル人が多いので、日常的にタミル語を話します。真鍋隊員の任地にはシンハラ人が多いので、彼女はシンハラ語を話します。(シンハラ語とタミル語について以下参照) 私自身、シンハラ語は片言のレベルだったため、シンハラ語への翻訳の確認をはじめ、真鍋隊員と事前連絡交換を密に行いました。また子どもたちの実態の確認など本番前日夜まで、打ち合わせを行い、私もシンハラ語の事前練習を重ねました。そして真鍋隊員と「お互いに、この機会を楽しんで環境のメッセージを伝えよう！」と確認し合いました。当日は子どもたちやセンターの先生方から、温かい歓迎を受け、保護者の方々もワークに積極的に参加してくださいました。この日はセンターの開設をお祝いする日でもありました。記念すべき日に貴重な機会をくれた「リトル・トゥリー」の先生方と真鍋隊員に感謝です。



↑真鍋隊員の配属先「リトル・トゥリー」



↑シンハラ語でのワークショップ



↑分別指導をする真鍋隊員  
楽しんでワークに参加してくれました



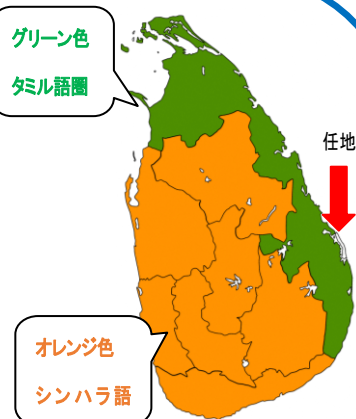
↑ワークショップ後の先生方との記念撮影



↑先生方にも分別体験してもらいます

## スリランカの言語事情：シンハラ語とタミル語

北海道の8割ほどの国土面積をもつスリランカ。日本と比較すると、小さな島国です。しかし多民族国家ゆえ国の中で3つの言語が使用されています。日本では考えられないですが、地域によって話す言語が異なります。国の7割はシンハラ人が大多数を占めるシンハラ語圏、国の3割はタミル人、及びムスリムが大多数を占めるタミル語圏です。スリランカはこのように民族ごとに国の中で住み分けをしています。私の任地はスリランカ東部州パッティカロア県です。ここは右の矢印を見ての通りで、タミル人が大多数を占めるため、タミル語が日常会話言語になります。そしてもう一つの言語が英語です。英語はスリランカでは連結語という位置づけで使用されています。ちなみにタミル語は南インド、マレーシアの一部の地域、シンガポールなどでも話されています



公共の交通機関の道路標識は

- ①第1言語 シンハラ語
  - ②第2言語 タミル語
  - ③連結語 英語 の順で表示
- ↓  
することが法律で決まっています。

※詳しくはスリランカ通信 No.2を参照。

国際協力に興味のある人は  
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
<https://www.jica.go.jp/>をチェック!  
では最終号で会いましょう!

言語	地域	主な話者	アルファベット	こんにちは
英語	全土	シンハラ人 タミル人 外国人	A	Hello. ハロー。
シンハラ語		シンハラ人	අ	ආයුබෝවන්. アーユボーワン。
タミル語		タミル人 ムスリム	அ	வணக்கம். ヴァナツカム。

